

テーマ	要約6. 新百合ヶ丘地域で生活する高齢者の実情
代表研究者	田園調布学園大学社会福祉学部准教授 和 秀俊
研究目的	<p>高齢者の中でも、退職後の男性にメンタルヘルスに問題を生じる人々が多いことから、新百合ヶ丘地域のモニターを対象に、男性退職者のリアルな実情や課題を把握し、そのメンタルヘルス改善に向けたナラティブ・アプローチ(注)の有効性を検証し、その地域への適用を検討した。</p> <p>注)臨床心理学から生まれた心理療法として、相談相手や患者の生き方の「物語(narrative)」の中から解決法がみいだせるという方法。</p>
研究方法	<p>①モニターの選定: 新百合ヶ丘地域において、男性退職者を対象に、「積極的活動参加層」、「中間層」、「閉じこもり層」の3層の男性高齢者モニターを選定、</p> <p>②モニターのライフストーリー・インタビュー: 合計30名を対象としてインタビューを実施。</p> <p>③映像の視聴やワークショップ: インタビューの映像の視聴前後に質問紙調査、ワークショップを実施。</p>
主要な研究結果	<p>1)ライフストーリー・インタビューの自分語りによる結果</p> <p>①メンタルヘルス向上に対する地域活動の有効性検証。</p> <p>②「積極的活動参加層」:精神的に健康で充実した生活を送っている。しらせ世代、団塊世代、焼け跡世代によりメンタルヘルスが異なる。</p> <p>③「中間層」および「閉じこもり層」:抑うつ傾向が高くハイリスクな人が多い。中間層、閉じこもり層(定年退職直後タイプ、ご隠居タイプ)によってメンタルヘルスが異なる。</p> <p>2)映像の視聴とDSTワークショップによる結果: メンタルヘルスの改善があることを検証。</p> <p>3)メンタルヘルスの改善に向けた「仕組み」</p> <p>①ナラティブ・アプローチ習得研修を田園調布学園大学和研究室、ライフストーリー・インタビューの撮影・編集、ワークショップの担い手を、「やまゆり」の中に各ボランティアグループを設立。</p> <p>②「やまゆり」や社協、地域包括、市民館、老人福祉センターなどが「自分語りサロン」を企画し、「自分語り」を文字起こし、簡単な自分史を作成するワークショップや講座などを開催。</p>